

c.

課題解決

地域で起こる様々な課題の解決方法を見つけるためにワークショップを用いることがあります。ここではそういうものを取り上げています。

地域で起きた問題が行政等に伝わり、取り組み方の一案としてワークショップを示される、という行政主催パターンが多く見られます。参加者は課題の現状を把握し、他人の意見を聞くことで理解を深め、解決方法の入口を見い出す、という流れになります。

「課題」とは生活マナー問題から環境問題など地域で問題と認識される様々なテーマです。一方、「解決」の段階は、事例によって様々です。解決の糸口が見つかる場合、解決に至らなくても参加者がお互い問題を共有することができればいいとする場合、対立する参加者の相互理解を深めるためにする場合などです。また、環境問題や人権問題などのテーマで実施したときには明確な「答え」はなく、参加者の意識が高まることを到達点としており、その場合は研修・啓発的な意味合いが強くなります。

このタイプのワークショップでは、最後の目標（到達点）をどの段階に置くのか、ということをおあらかじめよく考えておく必要があります。目標が問題意識の共有ならば、ワークショップでは解決策を見い出すことよりもむしろプロセスが重要と言えます。

又、このタイプのワークショップで扱えない、扱いにくい課題（テーマ）もあります。

個人レベルの課題、常識・ルールだけでは解決できないものでのワークショップは困難ですし、合意形成の必要がない場合にはワークショップ以外の方法でも可能です。また、あまりに多様な意見があったり、答えのイメージさえ湧かない課題はおそらくプログラムを組むことさえ困難となります。課題解決にワークショップを使うべきか否かはテーマや目標点によってよく検討した方がいいでしょう。

雲中公園の野良猫対策ワークショップ

経緯

このワークショップは、中央区・東部衛生監視事務所による「動物とのいい関係づくり事業」の飼い主のいない猫に対する取り組みとして神戸市中央区雲中地区の雲中公園とその周辺を対象に行われました。雲中地区は前年度（平成14年度）、中央区の「動物との共生推進モデル地区」に選定され、地域住民団体であるNPO輝うんちゅうを中心に、パネルディスカッション開催等により事業を展開してきた地域です。雲中公園は、南に小学校が隣接し、周辺は住宅地といった閑静な環境にあり、子供達が遊んだり、犬の散歩の途中に立ち寄ったりといった、地域の方々の生活に根ざした公園と言えます。しかし公園には野良猫が多く、砂場や猫の餌やり場になっているところは不衛生であるという現状でした。



ワークショップを行うにあたって

ワークショップは東部衛生監視事務所の担当者2名と神戸まちづくりワークショップ研究会のメンバー概ね10名で企画、運営し、愛護団体の日本動物福祉協会阪神支部の方々の協力も得られることになりました。また参加住民としてNPO輝うんちゅうの方々に協力していただくことになりました。

メンバーは東部衛生監視事務所の方から猫の生態や猫を取り巻く環境、動物愛護法についてのレクチャーを受け、NHK放映の野良猫についてのコミュニティの連帯を扱ったビデオを觀賞することで、共通の基礎知識をストックしました。



自己紹介カード（表）

（裏）

企画ミーティング

どのあたりを目標にしてワークショップを行うかについては、「地域猫」までいければ理想だが、まずは避妊方法の伝授、餌やりのルールを決めるお手伝いができれば、ということになりました。「地域外から猫に餌をやりに来ている方々にどう協力してもらうか」がポイントとなりましたが、そのためにもまず地域住民の理解と共通の認識（ルール）を決めることが大切だということになりました。

以上のことを念頭に、3回のワークショップを行うことにしました。第1回から第3回までのテーマとポイントは以下の通りです。

第1回…猫と人間—相互理解—

猫の生態について理解し、いろいろな考えや立場の人がいることを理解する。

第2回…雲中公園と猫—解決に向けての課題の共有—

雲中公園の猫について考える（実際に公園を見てまわる）。

他の地区はどうしているかを参考にする（主に猫の避妊について）。

どうすれば問題を解決できるか案出しをする。

第3回…猫と共存するために—具体的な行動のために—

実現に向けて、それぞれの立場でどの様なことができるかを考える。

第1回のプログラムについてはおおよそまとまりましたが、第2回以降のプログラムは第1回の参加者の様子を見てから考えるということになりました。

ワークショップ開催当日

当日はどのような考えの方々が集まるかは分かりませんでした。なるべく楽しい雰囲気に参加していただけるよう、猫の顔の絵を描いて、飼っている動物のシールを貼ってもらう自己紹介カードを準備したり、会場には野良猫のパネル写真（かわいいの）を展示しました。

以下、3回に渡るワークショップの流れを各回毎にご紹介します。

第1回

SCHEDULE

09:00 受付・会場設営

09:30 開始

あいさつ・オリエンテーション
—開催の経緯と趣旨説明

09:40 猫に関するクイズ
& レクチャー
—旗上げ回答で



10:10 グループワーク

45 min

自己紹介

あなたにとって猫とは？旗上げクイズの8を活用して各々の立場を述べる。

カード選び&理由の説明

24枚の形容詞カードの中から各々の猫に対する印象を表すカードを3枚ずつ選ぶ。そのカードを選んだ理由をふせんに書いて発表する。



グループ毎に
まとめ

10:55 グループ毎に発表

11:10 まとめ・次回に向けて

いろいろな立場の人がいますが共通の
思いもたくさんありますね。

自己紹介カードに感想を記入

11:30 終了

DATA

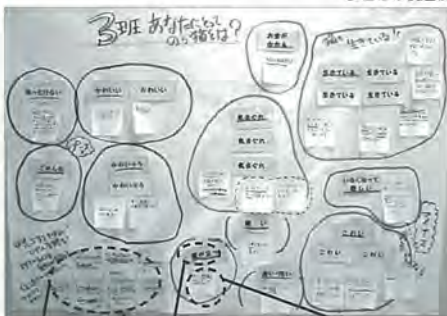
日時：2003.11.27
場所：蒼合文化センター
参加者：地域住民25人
行政 09人
愛護団体08人
スタッフ12人

■「猫と人間」

第1回の目的は、猫の生態についての理解、猫に対しての立場や考え方の違いについての「相互理解」にありました。

そこで、まず猫の習性や法律に関するクイズ&レクチャーを行いました。その後のグループワークでは、ただ嫌いという主張だけが先走らないように、住民の他に、行政職員と愛護団体の方が必ず1人以上参加する混合グループにしました。

まとめの模造紙



□名前ふせん
自分の名前と、
のら猫がどうな
ったらいいと思
うかを一言書く

■形容詞カード
選んだカードを
まとめて島をつ
くる

理由ふせん
その形容詞カ
ード選んだを理
由を書く

形容詞カードの文字は誘導にならないようになるべく同じ大きさにすること！

参加者の中には最初猫が大嫌いという方もいましたが、概ね「みんなで考える必要がありそう」となりました。

旗上げクイズの問題（答えは下に）

- 1 中国で猫が飼われる様になったのは何故でしょう。
- 2 雌猫の排卵を促す刺激は何でしょう。
- 3 昨年度、何匹の猫が神戸市の保健所に持ち込まれたでしょう。（持ち込まれた猫は処分される）
- 4 雌猫の不妊手術費用はいくらでしょう。
- 5 野良猫の平均寿命は何年でしょう。
- 6 動物愛護法では猫を捨てると罰則は何でしょう。
- 7 動物愛護法で、飼い主に守って欲しいこととして定められていることは？
- 8 猫好き？（大好き、好き、分からない、嫌い、大嫌い）

1：お金の難儀をホメスから守るため 2：交尾 3：4000匹 4：2万円くらい 5：3～4年 6：30万円以上の問題 7：不妊手術、屋内飼育、迷子札をける、離乳前の子猫をゆめゆめいらない、と飼育指導

第2回

SCHEDULE

13:00 会場設営

13:30 受付

雲中公園にて

14:00 雲中公園ガイドツアー

1) オリエンテーション

2) 現地調査

公園マップを

持って



14:30 ガイドツアーのまとめ 雲中小学校にて
参加者が気付いた事を公園の大マップ
にスタッフがまとめる。

- ・ポッチシール (猫、糞、餌、その他)
- ・ふせん (気付いたこと)

15:00 前回までの振り返り、今回の進め方
現地調査結果の説明

15:20 日本動物福祉協会 阪神支部の活動報告
「猫を減らしていくためには」

15:40 グループワーク (4グループで)

40
min

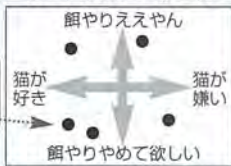
「今いる猫たちをどうする？」

～餌やりのついて考えよう」

ディベートゲーム

猫が好きか嫌いか、餌やりについてど
う思うか、の2軸で自分の立場を明ら
かにする。

自分の立場を
ポッチシール
で貼る



その後

何故そう思うのか話を深めてゆく。
ファシリテーターは意見を記録しなが
ら整理していく。

16:20 グループ毎に発表

16:35 まとめ・次回に向けて

自己紹介カードに感想を記入

16:45 終了

DATA

日時: 2003.12.17.
場所: 雲中公園・小学校
参加者: 地域住民16人
行政 08人
愛護団体08人
スタッフ15人

■「雲中公園と猫」

第2回の目的は、「課題の共有」でした。

ここでは課題の対象を主に雲中公園の猫に
して、より具体的に
すすめていくこと
になりました。そこで
雲中公園で集合し
て、現地を調査した
後に考えを深めるプログラムにしました。
野良猫に対してより積極的に考えていく導
入として、

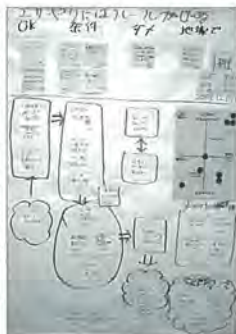


ガイドツアーのまとめ

1. 「猫を減らしていくためには」一避妊
2. 「今いる猫たちをどうする？」
～餌やりについて考えよう～餌やり
という2つのテーマを設けました。

避妊に関しては、日本動物福祉協会阪神支
部で活躍されている方の野良猫の避妊の必
要性や具体的な捕獲方法についてのお話に
感心すると共に非常に勇気付けられました。
(なんと! この方は自費で1年間で約1,500匹
捕獲、不妊去勢手術を依頼されていました。)

グループワークでは住民、行政、動物愛護
団体の方々の混合で
ディベートゲーム
を行い、自分の立場や
考えを予め明らかに
して1つのテーマに
ついて、様々な立場
の人間が同じテー
ブルで考える訓練をし
ました。



まとめの構造紙

グループワークでは日本動物福祉協会阪神
支部の方の活動報告の直後だったこともあ
り、具体的で前向きな意見も出ました。

第3回

SCHEDULE

12:30 会場設営

13:00 受付

班分け

13:30 あいさつ

進行説明

13:35 ビデオ視聴

DATA
 日時：2004.01.23
 場所：旗塚地域福祉センター
 参加者：地域住民16人
 行政 09人
 愛護団体09人
 スタッフ14人



13:55 オリエンテーション

ビデオ視聴

前回までの振り返りと
 今回の進め方について

14:15 グループワーク

全体進行説明

テーマ①.野良猫と付き合うルールを決めよう。

テーマ②.不妊去勢手術を進めるには

14:25 セッション1

40 min.

テーマ①,②、各2班ずつ計4班で、各班に様々な立場の人が混ざるように。

自己紹介

それぞれのアイディアをふせんに書き出し、順に発表

発表したものを整理

15:05 グループ毎に発表

セッション2の為に移動

15:30 セッション2

30 min.

地域2 行政1 愛護団体1 に別れる

立場毎にできることを考え、現実性の高いものを3つあげる

他の立場の人たちに、お願いしたいこともあげる

16:00 グループ毎に発表

16:20 まとめ

旗上げアンケート

自己紹介カードに感想を記入

16:30 終了

■「猫と共存するために」

第3回の目的は、「具体的な行動のために」でした。

ビデオ視聴

内容は「地域猫の紹介」「地域猫の実現に向けて住民が奮闘する」というものでした。猫嫌いだったおじさんが、バザーで子猫を里子に出す時に涙ぐんでいたところは皆の涙と笑いを誘いました。後のプログラムで、雲中公園の野良猫について自分達ならどんなことができるか、考えが出やすくする事がねらいです。

セッション1

これまで通り様々な立場の人を混ぜたグループワークで、テーマに対するアイデア出しを行いました。

各テーマでは、

テーマ①

「野良猫と付き合うルールを決めよう」

- ・ 餌のやり方（量、時間、場所）を決める
- ・ 糞の掃除（公園にトイレを作る?）
- ・ 餌を与える人とのコンタクト、話し合いの機会をつくる
- ・ 飼ひ猫にもルール

テーマ②

「不妊去勢手術を進めるには」

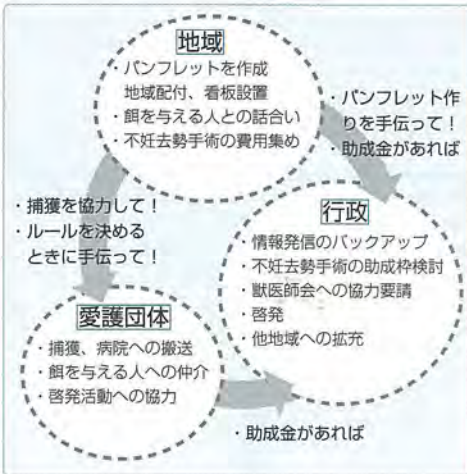
- ・ バザーをしたり、寄付を募る
- ・ 獣医師に協力をお願いする
- ・ 地域助成金や行政の補助をお願いする
- ・ 捕獲は愛護団体や餌を与えている人にお願いする
- ・ 地域の理解を得ることが大切

などの意見が出ました。

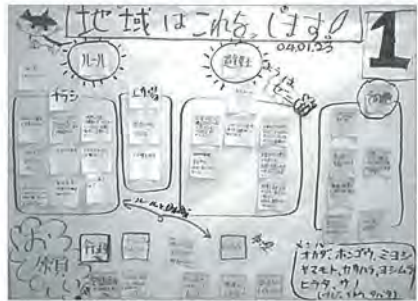
セッション2

それぞれの立場（地域住民、愛護団体、行政）に分かれて、できることを考えました。また、他の立場の人に協力して欲しいことについても話し合いました。

自分達で出来る事、協力してもらいたい事



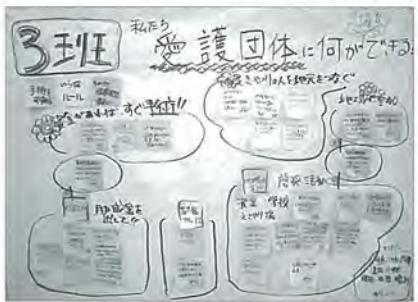
まとめの模造紙



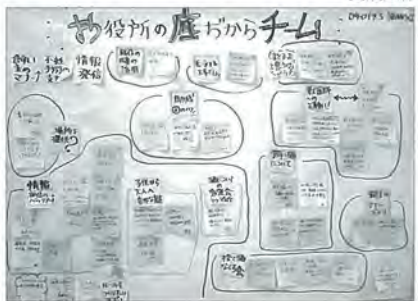
地域住民-1



地域住民-2



愛護団体



行政

課題解決

旗上げアンケート・まとめ

最後に、この3回のワークショップの感想と今後の取り組みについての「旗上げアンケート」を行いました。その結果を受けて、今日をスタートとして、これからお互いの意識を共有しながら、ワークショップ参加者全員が応援団となり、今回のワークショップで出た課題に具体的に取り組んでいくこととなりました。

旗上げアンケートの結果

3回のWSはいかがでしたか？	今後の取り組みには？
1 大変満足した 8	1 ぜひ参加したい 11
2 満足した 17	2 都合がつかば参加したい 19
3 どちらとも言えない 4	3 あまり参加したくない 0
4 少し不満 0	4 参加したくない 0
5 大変不満 0	5 その他 0
6 その他 0	

■ 参加者の感想

参加者には毎回、感想を自己紹介カード（P.23参照）の裏に書いてもらいました。これはその中から数名の感想を抜粋したものです。

A
さん

ただキライだけでなく、好きな人の意見も聞き、地域で取り組むことの大切さを感じた。

餌やり、マナー等両方の立場の意見を聞くことで、今後の話し合いも進展するのでは。

3回続いた終わりの日、少し先が見えてきたように思う。今後も心一つに取り組んでいく。

B
さん

動物との共生モデル地区として地域で支え合い、餌やり、不妊問題にしっかり取り組みたい。特に餌やりの方へのお願い。

避妊去勢の大切さと、餌やりの人との会合。資金の件考えたい。

3回続いた話し合い。少しずつ先が見えてきて、地域での広がりに期待できそう。

C
さん

猫も生きていますと実感しました。人間の思いやりも大切に共生できるよう道を見つけた。

餌を与える人と会うのは難しいかもしれませんが、努力したいと思います。砂場の掃除は手伝います。

心配しましたが、皆の協力もあり運動を進められそうですのでよろこんでいます。

D
さん

皆さんの色々な意見を聞いて、猫が生きていくのは大変だなーと思いました。

猫のトイレを作る案が出て、それは良いと思う。そのトイレの始末をするのが私にまわってきそうな気がする。

大変良かったと思います。又協力させていただくつもりです。

E
さん

猫も生きています。やさしくしてあげたい。勉強になりました。

やさしく付き合っていこうかなと思います。動物として人間のやり方ひとつだと思います。

3回色々な問題が出ましたが、これからが大変だと思います。がんばります。

F
さん

参加していろいろな意見を聞き、何か良い対策があればと思います。避妊の費用をパザーを開いてほしい。

皆様の意見を聞き、猫に不妊手術ができて、猫が段々少なくなるのを願いたい。

猫、大嫌いでしたが、3回の話し合いで猫と仲良しになりたい。

G
さん

第1回：猫好きな人もおられるが、猫に迷惑をかけられている人が多いと思った。無責任に餌をやらぬこと。不妊手術は是非！

H
さん

第3回：初めて参加しましたが行政の方々も一生懸命とりにくんで下さったので心強く思いました。今から楽しみに期待しています。

参加者がワークショップを通じて感じていたことが、この感想文にはいろいろあらわれています。第3回に今後の取り組みへの希望を見出した人、自分とは違う意見を聞くことで様々な考えがあることを感じた人、中には猫嫌いの人が最後には猫と仲良しになりたいと書いた感想もありました。なお、地域の参加者合計30名の中で3回とも出席したのは3分の1程度でした。

■ワークショップを終えて～その後の雲中地区

今後は「NPO輝うんちゅう」を核として、野良猫問題に取り組むことになり、ワークショップの内容や結果とこれからの取り組みへの理解を求める1枚のチラシを作成し、雲中公園周辺の住民に500枚配布しました。

そして、3月から愛護団体の支援を受けて野良猫の捕獲が行われ、現在のところ18匹の捕獲に成功しています（平成16年4月4日時点）。また、地域と愛護団体からの寄付金が予想以上に集まり、当面の手術費用を賄える見通しが立っています。もちろん引き続き寄付金を募ったりして資金集めは続けていきます。

さらに、実際にえさやりをしていた人（の一部）と話し合いを行いました。地域の野良猫への取り組みや不妊去勢手術のことなどを説明し、手術への賛同は得ることができました。これからも少しずつ地域との融和をはかっていくことになりそうです。

雲中公園での野良猫に対する取り組みは、地域が主体となり、愛護団体や行政等からの協力を得て、あせらずじっくりと進めていくことになるでしょう。

■運営者のつぶやき～運営にあたった東部衛生監視事務所の担当者に、ワークショップを終えた感想を伺いました。

●プログラムと運営体制をふりかえって

今回のワークショッププログラムには満足しています。その理由は次の3点です。

まず第1に、ワークショップの一番の目的であった「相互理解」と「合意形成」が参加者の間で達成できたこと。そして第2に、地域のやる気を醸成することができたこと。最後に、行政、愛護団体、地域との協力関係ができたこと。この3つです。

しかし反対によくなかった点もあります。

ひとつは話し合いが地域全体の動きにまで至らなかったこと。もうひとつはワークショップの運営が行政主体になってしまったことです。地元と行政、そして神戸まちづくりワークショップ研究会の協力体制はまあとれていましたが、特に地域との関係においては、行政主体になりすぎたと思っています。

●今後への思い

しかし参加者の意見は地域の野良猫への取り組みに反映され、ワークショップにより具体的な取り組みの方向性を共有することができました。

ワークショップ後にもチラシ配布や不妊去勢手術等の取り組みが進められています（上記参照）。まだ地域全体での活動にはなっていませんが、それはこれからだと思っています。



□ ワークショップの報酬の実際

ワークショップの企画・運営には、場合にもよりますが、手間がかかることが多いようです。では、そこで必要になった経費や、運営スタッフへの報酬は、どのように考えればいいのでしょうか？

残念なことに実際のまちづくりの現場では、ワークショップは「住民の意見聴取のプロセスの一つ」程度にしか認識されておらず、それに見合った適切な報酬が用意されていないのが現状です。公園づくりの例をあげると、ワークショップは基本設計や基本構想の策定の一部にしか過ぎず、ワークショップを行う行わないに関わらず同一の報酬基準で判断されることがほとんどで、その効果や重要性は、まだまだ顧みられていないといつてよいでしょう。「神戸まちづくりワークショップ研究会」のメンバーからは、歩掛り計算に基づいて「基本料金50万円、各回ワークショップの実施（アフターフォローも含む）50万円程度」という提案が出されていますが、一部を除いて、実際に適用されることはほとんどありません。

こうした現状もありますが、一方でワークショップのスキルや効果に対する一般的な評価軸が設けられていないという問題もあると思われます。つまり、プログラムの企画能力や、ファシリテーターの運営能力を評価する仕組みが、まだ全くないのです。例えば同じテーマで、同じ数の運営スタッフが用意されていたとしても、プログラムやスタッフの質、参加者の性格などによって、ワークショップの成果は全く異なるものになり得ますが、その差をどのように評価すべきかと言う課題があります。

このような課題は十分に理解されているとは言えませんが、例えば上に示したような報酬基準を設定することは、ワークショップという手法が適正な社会的位置づけを持つために、今後、大きな重要性を持つと考えられます。